

施策評価管理シート

施策体系	政 策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	2017(平成29)年6月作成	
	基本施策	3	市民文化の創造	担当部局名	部局長名
	施 策	1	文化振興	教育委員会事務局	高嶋 正広

1. 施策の基本方針 **P**lan

- 文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- 名張らしさのあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- 多様な文化資源を活用して、郷土に誇りと愛着を感じられるふるさとづくりを創造します。

2. 現状と課題 **P**lan

- 名張市は多様で豊かな文化資源を有しています。その活用を図り、全国への情報発信や集客などにより、地域の活性化につなげる仕組みづくりが必要です。
- 市民の文化芸術活動は、活発に行われていますが、次世代への継承や関係者の交流を図るための活動の場や、発表の機会を数多く提供していく必要があります。

○施策指標（目標）及び達成状況 **P**lan **D**o

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合（％）	目標	-	-	-	33.0	
	成果	30.9	40.0			100.0%
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数（人【延べ数】）	目標	-	-	-	368,000	
	成果	287,792	328,624			50.9%
美術展覧会出展数（点【延べ数】）	目標	-	-	-	2,100	
	成果	1,420	1,722			44.4%

3. 課題解決への取組内容（平成28年度） **P**lan **D**o

計 画	実績及び主な成果
・市民の芸術文化活動の発表の場や芸術に親しむ機会を、創意工夫を加えながら提供し、市民文化の振興を図ります。 ・能や狂言など伝統文化の伝承と振興を図り、能楽のふるさとづくりを推進します。 ・郷土資料館を拠点として、埋蔵文化財の展示施設や整理施設を一層充実させるとともに、市民の学習意欲を引き出す企画展や体験学習、観察会を開催するなど、文化財等の効果的な活用を進めます。 ・学校や歴史サークル団体、地域等と連携し、入館者数の増加と、施設の有効活用を進めます。 ・文化財やまち並み景観に重要な役割を果たす歴史的建造物等について、引き続き、その保護と継承に努めます。 ・史料の収集・整理・保存を継続して行うとともに、郷土学習等との業務連携を図りながら、次巻以降の市史の刊行に向けた取組を進めます。 ・なばりの伝統や自然・文化等の特性を生かして、特色ある文化を育みながら、積極的に情報発信を行い、様々な地域との文化交流に取り組みます。	・美術展覧会や市民文化祭を開催し、市民の芸術文化の発表の場や、文化に親しむ機会を提供しました。また、観阿弥ふるさと公園能楽堂を会場に、観阿弥祭や名張能楽祭を開催、名張子ども伝統芸能祭りをADSホールで開催し、広く能楽に触れる機会を提供しました。 ・郷土資料館では、年間6回の企画展を開催したほか、夏休みや来館者の希望に応じた体験教室の開催、オオサンショウウオ観察等の出前授業を実施しました。平成28年度の入館者数は、市内の小学校や県外の歴史サークルの見学等が増加し、前年度に比べ111人増の2,835人となりました。 ・これらの取組により、「身近に文化や芸術に接する機会がある」と感じている市民の割合は約4割に増加しました。 ・文化的資源や史跡の保護・伝承については、平成28年度は貝増家住宅主屋の登録文化財指定に向けた手続きを行いました。

4. 成果を踏まえた課題や現状 **C**heck

- ・多様で豊かな文化資源の活用を図り、広く情報発信することにより、地域の活性化につなげる仕組みづくりが必要です。また、名張市郷土資料館（埋蔵文化財センター）については、拠点施設としての環境整備、機能充実に取り組むとともに、所蔵資料等の活用をより一層進める必要があります。
- ・文化財保護や歴史文化の伝承について、専門知識を有する職員の育成を進めるとともに、地域文化を担う人材の発掘・育成に取り組む必要があります。
- ・少子高齢化に伴い、能楽をはじめ、地域で受け継がれてきた伝統文化を継承することが困難になりつつあることから、子どもたちがこうした伝統文化に触れる機会をさらに充実するとともに、引き続き後継者の育成に向けた取組を進める必要があります。

5. 課題解決への取組内容（平成29年度） **A**ction

- ・郷土資料館において、学習講座、企画展示や体験活動等を開催するとともに、夏見廃寺展示館や名張藤堂家邸等の文化施設を活用して、名張の歴史や文化の魅力を発信し、郷土愛の醸成を図ります。また、本年度購入を予定している自家用スクールバスを、市内小中学校の児童生徒が文化施設等で校外学習活動を行う際の送迎車両として活用できるよう検討を進めます。
- ・能楽のふるさとづくりを推進するため、引き続き観阿弥祭、名張子ども伝統芸能祭り等を開催するとともに、名張子ども狂言の会が名張ユネスコ協会から「なばりのたからもの」に認定されたことを受け、名張市観阿弥顕彰会と共催で、名張能楽祭を青少年センター（ADSホール）で開催するなど、より一層の能楽振興と、次世代への継承、関係者の交流を図るための活動の場の提供に取り組みます。
- ・美術展覧会や市民文化祭の開催を通して、芸術文化活動の発表の場や文化に親しむ場を提供し、市民の芸術文化を育みます。
- ・芸術文化活動の拠点となる青少年センター（ADSホール）では、指定管理者との連携を密にして、より多くの市民の皆様にご利用いただけるよう事業展開に取り組むとともに、施設面では吊天井落下防止対策工事及び音響設備改修工事を実施し、施設設備の一層の安全・安心と利便性の向上を目指します。

6. 行政評価委員会による総合評価



現行通り施策の取組目標の達成に向け、各事業の推進を図ること。